

イネ科 スズメノチャヒキ属

イヌムギ (犬麦)

Bromus catharticus Vahl

自生環境

道ばた、畑地、野原 など

原産地

南アメリカ

予想される被害



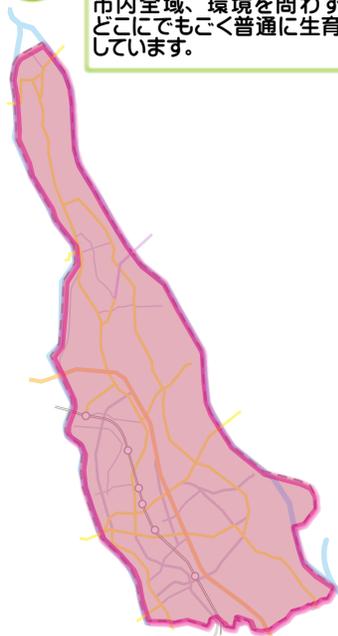
野原に多く、とても繁殖力が強いため、ほかの植物の生育場所を奪ってしまうおそれがあります。また風媒花なので、初夏のイネ科花粉症の原因にもなります。

特徴

- ☆ 原産地は南アメリカですが、牧草として広く利用されているため、世界じゅうに野生化しています。国内では、1882年に小石川（東京都）で採集されたのが最初の記録と考えられ、現在は全国各地で普通に見られるようになっています。
- ☆ 多年草で、冬の間も青々とした葉を茂らせています。イネ科の植物は、穂のない時期の識別は困難を極めますが、イヌムギは、葉の幅が広くて柔らかく、葉鞘と呼ばれる部分に白い毛が多いなどの特徴から、慣れると容易に見分けることができます。
- ☆ 3～6月ごろに平べったくカサカサした感じの穂を多数つけます。穂は無毛で緑色ですが、しばしば紫がかった色になることもあります。夕ネでよく増えます。

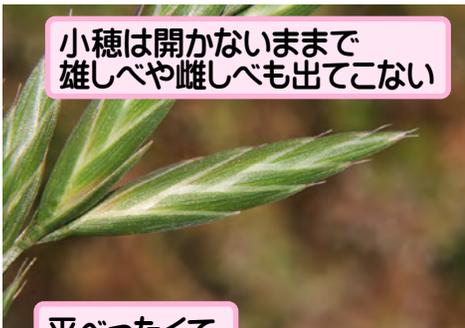
市内の分布状況

市内全域、環境を問わずどこにでもごく普通に生育しています。



おしべが顔を出すことも

イネ科植物の穂は、花期と果実期とで見た目の変化が小さいものです。ただ、花時にはふつう雄しべや雌しべが顔を出すため、咲いているとの判断が可能です。しかしイヌムギの多くは、咲いても雄しべが外に出ず、中で自家受粉にて完結する傾向があり、花か果実かの識別は困難を極めます。ただ、イヌムギの中には、穂の間から雄しべが顔を出す株もたまに存在します。



小穂は開かないままで雄しべや雌しべも出てこない



穂は熟すとバラバラになって夕ネとともに落ちていく



平べったくてかたい小穂がたくさんつく



冬でも葉は青々としている

葉鞘（葉が茎を包んでいる部分）はやわらかい毛が多い



たまに小穂から雄しべが顔を出す株もある

雄しべ



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

